



・羽生市地区合同発表会（本年3月）
（オクラホマミキサー他 演奏中）
・会員数 10人
・毎月第1・第3土曜日
（主練習会場は鷺宮東コミュニティセンター）
・連絡先 山口周二（TEL 59-5305）

鷺宮地区

私達のクラブは、昭和59年旧鷺宮町を拠点に発足して早や30年を迎えます。以来、周辺エリアを含めハーモニカ活動の中心的役割を担って来ました。近年のハーモニカ愛好者急増に伴い（埼玉県ハーモニカ協会加入者約450人）仲間からはジャンプして各地のクラブのリーダーとして活躍中の方々もいます。当クラブでは毎年、鷺宮地区文化団体連合会主催のファミリーコンサートに常連として連続参加（本年度第35回）しており、また栗橋地区合併記念芸能祭、久喜市ハーモニカサークル交歓会（昨年）、羽生市地区合同発表会（本年3月）や社協を通じての慰問活動も毎年行っております。高齢化社会加速の中、心身共に健康で生き甲斐のある毎日を送りたいものです。多くの仲間達とハーモニカを楽しみながら発表会や福祉活動が続いていくことは、生涯学習の一つであると思っています。皆様、機会がありましたら私達と一緒に楽しく活動を楽しみませんか。お待ちしております。

久喜市生涯学習だより

まなびすと久喜

平成 25 年 8 月 1 日 発行

第 6 号

編集：久喜市生涯学習推進部
発行：久喜市教育委員会



久喜市放課後子ども教室運営委員会会長

飯島 祐紀夫

江戸川べりから見た

〇〇辞典、〇〇事典とつく書籍は数多くあります。過日、書店で本探しをしているとき、「江戸しぐさ事典」（桐山勝編著、三五館発行）に出会いました。「江戸しぐさ（思草）」は、大都市であった江戸の町で人びとが快適な社会生活を営んでいくための「公衆マナー」であり、「コミュニケーション・スキル」であり、「知恵」としてまとめられたものと言われています。

この事典には400をこえる項目があり、それぞれに詳細な解説がされており興味深いものがあります。子どものしつけ、社会人としての常識、仕事（商売）の仕方、リーダーシップの在り方など、多岐にわたります。められています。

そこには私たちが忘れてしまったことや身につけておかなければいけないことなど、現代社会でも役立つものがたくさん

第4回まなびすとフォーラム（生涯学習研修大会）

大会テーマ 『あなたにとっての安心安全な地域とは』

6月8日（土）菖蒲文化会館（アミーゴ）で、小学生・中学生から、高校生、大学生、学校教育・社会教育関係者、PTA役員、ゆうゆうプラザ関係者、市民大学生、高齢者大学生、一般市民まで165名の参加者のもと開催されました。



平忠昭生涯学習推進会議議長の開会挨拶に続き、田中喧二久喜市長、鎌田忠保市議会議長のご挨拶をいただき、柿沼公男生涯学習推進部副委員長のテーマ説明後、17分科会に分かれ、熱心な討議が展開されました。



今は、どの地域も少子高齢化、核家族化、地域住民のコミュニケーションの希薄化が否めず、分科会では、参加者がそれぞれの立場から子どもの安全、高齢者世帯、介護や医療、防犯や防災など、多岐にわたる安心安全が熱く語られました。

報告発表で共通していたことは、地域コミュニティづくりの重要性でした。あいさつや声かけの大切さ、子どもや高齢者の見守り、地域での行事や交流活動の参加など、一人ひとり地道な活動を続け、働きかけをしていくことが大切であることが発表されました。

まとめでは、金子雄司生涯学習推進部委員長から自分の命は自分で守ることがベースであること、また人が支え合っていくことが人生であることが話され、今日討議されたことを「いつやるの」「今でしょ!」、「誰が」「私たちが」と確認しあって閉会となりました。

なお、フォーラムの報告書は4地区のまつりの生涯学習推進部ブース及び来年2月に鷺宮西コミュニティセンターで開催の「まなびすと久喜」に展示されます。

予告
第4回久喜市生涯学習推進大会 まなびすと久喜「鷺宮大会」
平成26年2月1日（土）・2日（日）に開催!!

会場 鷺宮西コミュニティセンター（おおとり）・鷺宮体育センター

内容 まちづくりフォーラム・まなびすと発表会 他多数のイベントがあります。詳細は後日お知らせします。

*ご家族、お友達、皆様お誘い合わせでのご来場をお待ちしています。

久喜市 生涯学習施設 紹介

- ★場所 久喜市桜田 3-10-2
- ★電話 0480 (58) 1101
- ★アクセス 東鷺宮駅（JR）東口から徒歩 10分
- ★休館 毎月第2水曜日・年末年始（12月28日～1月4日）



鷺宮東コミュニティセンター（さくら）
地域住民の連帯意識を高め、健康で文化的な近隣社会の建設とその発展に寄与するため、昭和55年に設置されました。ボランティアアビュロー、会議室、和室、集会室を有し、集会室は約350名を収容でき、ステージも設置されています。災害時の「ひなん場所」に指定され、3日間5,500人分の飲料水が確保されています。



- ★場所 久喜市中里 1048-1
- ★電話 0480 (55) 1122
- ★アクセス 南栗橋駅（東武）西口より徒歩約 15分
- ★休館 毎月第2木曜日・年末年始（12月28日～1月4日）

栗橋コミュニティセンター（くがる）
平成18年に完成した近代的な建物が栗橋コミュニティセンターです。子育て支援センターと幼稚園の複合施設となっており、コミュニティ推進を図る中で、地域に開かれた幼児教育を推進していくとともに、子どもから高齢者まで3世代の交流や、幅広く社会参加できる環境づくりを目指してつくられました。これにより一層の地域連帯意識の高揚を図ることが可能となりました。どうぞ気軽にご利用ください。

埼玉県生態系保護協会久喜支部

街の中に、緑と水辺があることは景観の美しさだけでなく、どんなにか私たちの心身を癒してくれますね。久喜北陽高校の前久喜パークタウンにある中落堀川の調整池が香取公園で緑と水辺のビオトープ・久喜市が管理する公園です。私たちは市と共に広報で市民にも呼びかけ、8年前から年2回この整備作業をしてきました。昨夏ここが関東建設弘済会及び日本生態系協会から「関東水と緑の拠点百選」に選定されました。また北側角の野鳥の観察デッキは平成19年県構造物「彩の国景観賞」を受賞しています。ここに、見られる鳥の案内板をこの春作製、取付けました。私たち103名の会員は市内外の自然観察会の企画や生き物調査、学校や諸団体の要請でガイドや講師派遣、環境保全活動、市や県への提言なども行っています。夏のこども自然観察会・野草昆虫観察会・市民野鳥観察会や多くの市の事業にも積極的に協力して、自然を愛し楽しみ守り育てる活動をしています。

奥貫 和夫



本多静六博士記念館と案内ボランティア

平成4年、旧菖蒲町は埼玉県と協議し、本多静六博士の顕彰事業を推進することになり、博士の生家に近い旧122号線の傍らに立派な生誕記念園が完成し、多くの人の休憩、勉強に利用されています。

以来10年毎に記念事業として、記念室の開設、記念館の完成に至り、名もないボランティア団体が、「本多静六博士を記念する会」と名乗り、「本多静六博士を顕彰する会」と改め、「本多静六通信」の発行、市民ゆかりの地訪問、本多静六の森の管理、記念切手の発行など、諸々の事業を行っています。

市はハードな事業、会はソフトな面と分担し、20年を経過し、記念館完成に伴い案内ボランティアの必要に迫られ、役員全員で立ち上がり各人の思考のまま実施に入り、不備はご容赦頂き、感謝される案内人を目指して努力しています。

本多静六博士を顕彰する会 会長 小山 千秋



久喜市指定有形文化財「撫山先生終焉の地」碑

久喜駅西口から西に4分程、槐と樟の巨木ぐらゐしか当時を偲ぶものはないが、NTTの手前に久喜市に誇らしい碑が建っている。本年3月4日、市教委は隣に解説板を取り付けた。山月記・李陵などで知られる天才作家中島敦ゆかりの地、祖父中島撫山（漢学者・儒者）の幸魂教舎跡地である。尚、敦の父が6男の中島田人。以下一部を抜粋する。

漢学者の中島撫山は、埼玉県東部地域の教育の振興に大きな功績を遺した人物である。この碑は撫山の6男田人が記し、以下のようなことが書かれている。



亡父の諱は慶、字は伯章、号は撫山である。文政12年(1829)4月2日、江戸の亀戸で生まれた。14歳の時、はじめて亀田先生に弟子入りして、綾瀬、鷺谷の両先生につき従って学んだ。(中略)埼玉郡久喜に定め、幸魂教舎を開いて、この地方の子弟に学問を教えた。以来44年間に入門したものは千数百人にのぼった。以下略 久喜市の歴史や文学に触れてみませんか！

「撫山から敦ゆかりの地めぐり」11月8日9日実施予定

久喜・中島敦の会



中島 敦

「郷土を知ろう、学んでみよう」

久喜市の歴史・自然・史蹟・文化等を訪ねたり、学んだりされているサークル・研究会・団体・ボランティアの皆さんの活躍をお届けします。この機会に興味をお持ちになりましたら、郷土を知る学びの場として参加をしてみたいはいかがですか。

また、久喜市商工観光課でも、久喜市の魅力を多くの方に知っていただくために、観光ボランティアガイド発足に向けた取り組みを推進しています。

お問い合わせは、久喜市生涯学習課生涯学習係

(☎0480-22-1111 内線4282・4283)へお願いします。

郷土資料館ボランティア

今から5年前、埼玉県東部地区の水塚を調査するため、郷土資料館ボランティアの募集があり、応募しました。ボランティア活動では、資料館が計画した水塚調査のほか、ボランティア側からも調査の提案をしてきました。

館外では、カスリーン台風の被害状況の聞き取り、屋号や石碑等の調査を行い、今年の2月までは旧菖蒲町の水塚調査を行ってきました。館内では、企画展の展示補助、昔遊び(ドングリ独楽など)や七夕飾り(マコモ馬作りなど)の講座などを行っています。



今後は、これまでに蓄えた実績をもとに、広く多くの方々に対して市の歴史、自然環境等を紹介していきたいと考えています。

ボランティアの5人だけでなく、もっと多くの仲間が必要です。「楽しく」「無理せず」「長く」をモットーとしています。一緒に街を歩き、勉強しながら生涯学習の交流の場としてボランティアに参加してみませんか。

郷土資料館ボランティア 山田 幸市郎

栗橋歴史案内

久喜市の中では、栗橋は利根川に接しておりそれに関する歴史を紹介してみます。まずは栗橋関所についてですが、利根川の強化堤防の工事により、歴史的建造物が少なくなり現在では渡船場跡、16代徳川家達の筆「栗橋関所址」の石碑が残っています。本陣、番所跡等は無くなりました。利根川は徳川家の日光社参、東北諸大名の参勤交代をはじめ、朝鮮通信使、琉球使節は日光に三度通り例幣使が日光より江戸へ向かう際にも栗橋を通過しています。利根川以外では、栗橋駅前静御前の墓があります。古河の思案橋まで義経を追って、病にかかり栗橋に引き返し亡くなったと言ふ伝承があります。他に、主に童謡作曲家で有名な下総院一が、その父が校長をしていた栗橋高等尋常小学校を卒業しています。その時初めてベビーオルガンに接し、作曲家としての才能が芽生えたきっかけになりました。他に旧跡など数多ありますので、是非、栗橋地区に探索に来てください。

栗橋地区文化財ボランティア 井上 一平



久喜市生涯学習まちづくり研究会

久喜地区を代表する7月提燈まつり・10月市民まつりがあり、各地域にコミュニティ主催の天王様・ささらなど、住民の「ふるさとづくり」を意識したものと考えられます。

甘楽院は、市の歴史に重要な古河公方2代足利政氏館跡で、西側および北側には、空堀がめぐらされ北側には土塁跡も残っています。

古くから「生涯学習のまち」に相応しく、江戸末期の著名な儒者亀田鵬齋と孫弟子中島撫山による、学習の場として遷善館、幸魂教舎があり、また武道を目的とした神道無念流の戸賀崎氏練武遺跡など、多くの剣豪も生まれています。清久地区の7月17日河原井、8月26日仁丁町では、祭日に家々の入口に行燈が飾られ、初夏の風物詩が今でも見られます。また7月の最終金曜日に清久公園で工業団地主催の花火大会も開催。同地区に白花タンポポの生息地が見られ、清福寺の大いちょうの太さは、全国的に誇れるものです。

市の誇れるものをアピールする必要がある、マスコミを如何に利用するかが課題です。

代表 中里 厚子

